



2002W杯で生まれた国際交流 アフリカへの希望のボール 今年も 湘南での呼び掛け 来週スタート

長年、内戦に苦しんできたアフリカのシエラレオネとリベリア。サッカー熱が高い両国の子どものために、日本の市民たちの思いが詰まったサッカーボールが、今年も届けられます。

Jリーグの湘南ベルマーレ（本社：神奈川県平塚市、代表取締役：真壁潔）と、国際支援 NGO のピース ウィンズ・ジャパン（PWJ、本部：東京都世田谷区、統括責任者：大西健丞）が、国際総合物流企業のディー・エイチ・エル・ジャパン株式会社（DHL ジャパン、本社＝東京都品川区、代表取締役社長：ギュンター・ツォーン）の協力を得て、サッカーボールを贈るプロジェクトが、ワールドカップイヤーの今年も継続されます。

日本と韓国での共催となった2002年ワールドカップ。湘南ベルマーレのホームタウンである平塚市は、アフリカ・ナイジェリアチームのキャンプ地となりました。サッカーで生まれた国際交流の気持ちを大切にしているため、市民たちにボールを提供してもらい、ボールの入手が難しい国へ贈る取り組みを始めました。

湘南ベルマーレとPWJは2005年3月、さまざまなプロジェクトやコミュニティー活動をともに行いながら、国際支援の輪を広げていくことを目的に提携。ボールを贈る事業には、無償輸送を申し出たDHL ジャパンとともに、三者で取り組んでいくことになりました。2005年6月、約150個のボールを、PWJが人道支援を行なっているイラクへ届け、2005年9月には、スマトラ島沖地震・津波で大きな被害を受けたインドネシア・アチェ州と、シエラレオネ、リベリアに向けて、計150個のボールが贈られました。また、2005年12月には、湘南ベルマーレの選手らがアチェを訪問。子どもたちとのサッカー交流も実現しました。

今年は6月7日から7月1日まで、平塚競技場で行われる湘南ベルマーレの試合で、ボールを市民のみなさんに持参してもらい、夏から秋にかけて、DHLが現地へ輸送、支援活動が続けるPWJが子どもたちへ届けます。

シエラレオネ、リベリアの両国とも、サッカー人気は高く、住民たちは市内にあるビデオセンターなどでサッカー中継に熱中します。広場とボールさえあれば、すぐにサッカーの輪ができますが、ボールを手に入れるのは簡単なことではありません。昨年、アチェを訪問した湘南ベルマーレのMF加藤望選手は「現地の子どもたちとふれあい、ともにボールを蹴り、彼らの喜ぶ姿と笑顔を目の当たりにして、活動の意義をあらためて感じました。毎日を精一杯、生きている子どもたちへ、ボールとともに市民・サポーターの皆さんの気持ちもしっかりと届いていると思います。今年もご協力、よろしくお願ひします」と話しています。

このリリースについてのお問合せは、ピース ウィンズ・ジャパン広報までお願いいたします。

TEL:03-5451-5406 / FAX:03-5451-5401 / pr@peace-winds.org